

資源循環研究部 研究員
岩下 真理

第11回国際都市排水会議 (ICUD) に参加



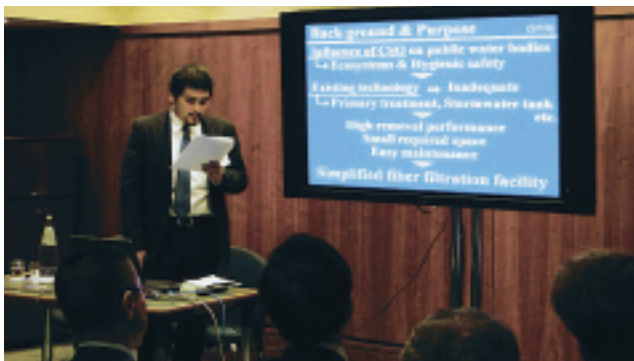
簡易型繊維ろ過技術などを発表

2008年9月1日から5日にかけてスコットランドのエジンバラ市において、国際水学会（IWA）および国際水理学会（IAHR）主催の国際都市排水会議（ICUD）が開催されました。この会議は、下水、雨水等に関連した専門家を対象としたもので、最新の研究結果を共有するとともに都市内の雨水排水について意見交換することを目的としています。開催国を中心にヨーロッパやアメリカ、アジア等から研究者、行政担当者、民間技術者が参加していました。

本会議は、「水理解析と流出モデル」「排水源の管理」「下水プロセス」「都市洪水」「モニタリングとモデリングのデータと制御」「水と社会」「未来」「拡散汚染」「新技術と促進技術」等をテーマに9セッションに分かれ、364件の論文発表と27件のポスター発表がありました。本機構は、以下の発表を行いました。

- 口頭発表「合流式下水道改善のための簡易型繊維ろ過技術」：嶋津研究員
- ポスター発表「大津市雨水浸透整備計画策定に関する研究」：宮原研究員、「広島市内水ハザードマップ作成に関する研究」：岩下研究員

簡易型繊維ろ過技術は、下水道機構と民間共同研究者が共同でその性能を確認し、技術的事項をとりまとめたもので、日本で独自に開発された合流改善技術の1つです。今回の発表を通して、繊維ろ過技術を海外



嶋津研究員の口頭発表

へアピールすることができました。

ハザードマップについての発表では、雨水対策がハード的な対策や専門家の間における解析技術の検討などに関する報告が多い中、ハード対策だけでなく、ソフト対策を組み合わせたものであるとともに、市民にわかりやすくするための取り組みについての内容であったため、特に低地が多いデンマークの方などには多大な興味を持っていただくことができました。また、大津市に関する発表では以前に大津を訪れたことがある外国の方に出会い、発表内容とは少し違う形で交流を深めることができました。



テクニカルツアー (Falkirk Wheel)

国際都市排水会議主催のテクニカルツアーとして、船のエレベータであるFalkirk Wheelの視察に参加いたしました。Falkirk Wheelはスコットランド最大の工業都市であるグラスゴーを流れるforth and clyde canalと、スコットランドの首都であるエジンバラを流れるunion canalをつなぐために作られました。高さが35m、運河の水位差は25m有り、Wheelに船を乗せて回転し、二つの運河を行き来を可能にしています。

今回の11th ICUDは我々にとって初めての国際会議の参加で、海外の技術情報に関する知見を得ることもでき、非常に貴重な経験をさせていただきました。



Falkirk Wheel